

レポート：知的財産における戦略兵器としての生成 AI — 島津製作所の先進的アプローチに関する詳細分析

Gemini Deep Research

I. エグゼクティブサマリー

本レポートは、株式会社島津製作所の知的財産（IP）部門が、生成 AI（Generative AI）の実践的活用において、世界的なリーダーとして台頭している事実を明らかにするものである。これは単なる理論的な探求ではなく、明確な予算に裏打ちされた断固たる戦略的イニシアチブである。

本分析の触媒となったのは、2025 年 5 月に開催された「LexisNexis PatentSight+ Summit 2025」である。このサミットにおける同社知財部長、阿久津好二氏の発表は、これまで公開されてこなかった同社の先進的かつ自律的なアプローチに関する前例のない洞察を提供した¹。

島津製作所の戦略は、以下の 3 つの中核的要素によって他社と一線を画している。

1. 基礎的なツールを超えた、最先端の生成 AI モデルの導入。
2. IP 部門内における完全な予算および契約の自律性。これにより、迅速かつ独立した技術採用が可能となっている。
3. 同社の生成 AI 関連予算の主要な消費者としての IP 部門の役割。これは、IP 部門が戦略的に極めて重要視されていることを示唆している。

この積極的な姿勢は、IP 部門を従来の支援機能から、イノベーションサイクルを加速させ、重要かつ防御可能な競争優位性を創出する戦略的兵器へと変貌させている。本レポートでは、この戦略、その運用的実行、そしてより広範な市場への影響を詳細に解体・分析する。

II. 戦略的基盤：島津製作所の企業文化としてのイノベーション

2.1. 企業全体の指令：デジタル時代における「科学技術で社会に貢献する」

島津製作所の IP 部門における生成 AI への積極的な投資は、決して孤立した動きではない。それは、同社の長年にわたる企業理念と、全社的に推進されるデジタルトランスフォーメーション（DX）戦略の論理的な延長線上にある。

同社の根底には、「科学技術で社会に貢献する」という社是が存在し、これがイノベーションを重視する企業文化の礎となっている²。この理念は単なるスローガンではなく、具体的な戦略投資を方向づける指針として機能している。現行の中期経営計画（2023-2025 年度）においても、「DX 推進」は経営基盤を強化するための 7 つの重要項目の一つとして明確に位置づけられている³。これは、組織全体に対するトップダウンでのデジタル変革への強いコミットメントを示している。

このコミットメントは具体的な行動にも表れている。2021 年には DX・IT 戦略統括部を設立し⁶、データ活用人材の育成プログラムを構築⁶、データ活用プラットフォーム「Domo」を導入してデータドリブンな文化の醸成を図るなど、有形の投資が行われている⁷。特筆すべき事例として、航空機器事業部が抱えていた 350 種類もの社内資料の検索という課題に対し、生成 AI を用いた検索システム「航辞援（こうじえん）」を独自に開発し、月間 100 時間以上の工数削減を達成したことが挙げられる¹⁰。

2.2. IP 部門の使命：保護から戦略的価値創造へ

島津製作所の IP 戦略は、単なる特許権の取得にとどまらない。公式に発表されている戦略では、製品競争力の源泉として戦略的な知的財産網を形成すること、そして特に AI、IoT、DX といった新技術に関して「有用な知的財産の早期獲得」を進めることが強調されている¹¹。

この戦略に基づき、IP 部門は経営や事業戦略に知財情報を活用する「IP ランドスケープ」や、知財に基づく標準化戦略の策定支援といった高付加価値業務に積極的に取り組んでいる¹¹。このような戦略的アプローチは外部からも高く評価されており、同部門は「知財功労賞 特許庁長官表彰」を受賞している¹¹。

これらの背景を分析すると、イノベーションの自己強化ループとも言うべき構造が見えてくる。まず、会社全体の戦略が DX と AI の導入を指示し、資金を供給する⁴。次

に、IP 部門の使命は、まさにその AI や DX 分野における発明を保護することである¹¹。AI 関連の発明を効果的に評価し保護するためには、IP の専門家自身がその技術を深く、実践的に理解する必要がある。これが、IP 部門が自ら保護対象とする技術のパワーユーザーになるという強力なインセンティブを生み出す。そして、その活用を通じて得られた新たな知見や AI の応用アイデアが、次なる特許創出につながるという好循環が生まれるのである。

したがって、島津製作所の IP 部門は、単に企業の方針に反応しているだけではない。その中核的使命（AI イノベーションの保護）と業務上のニーズ（効率化）が完全に一致しており、社内における先進的な生成 AI 活用の理想的なインキュベーターとなっているのである。

III. 転換点：「LexisNexis PatentSight+ Summit 2025」の徹底解剖

3.1. イベント概要：IP リーダーシップを巡る注目の舞台

「LexisNexis PatentSight+ Summit」は、世界の IP 専門家が一堂に会し、最先端のテーマを議論する最高峰のイベントである¹²。2025 年 5 月 28 日に開催されたサミットは、「未来を拓く知財戦略～戦略・人材・AI の新たな可能性～」をテーマに掲げていた¹。

このサミットで特に注目を集めたのが、「知財領域における AI の活用」と題されたパネルディスカッションであった。このセッションには、日本の主要テクノロジー企業 3 社の IP 部門責任者が登壇した¹⁵。

- 阿久津 好二 氏：株式会社島津製作所 知的財産部 部長 弁理士¹²
- 竹口 幸宏 氏：京セラ株式会社 法務知的財産本部 IP 戦略推進部 兼 知的財産部 部長¹²
- 風間 進二 氏：旭化成株式会社 研究・開発本部 知的財産部 技術情報グループ長¹²

このパネルは、日本を代表する企業が生成 AI 革命にどのように対峙しているかを直接比較できる、またとない機会を提供した。

3.2. 阿久津氏による啓示：島津製作所の AI リーダーシップ宣言

サミット開催前、公開情報に基づく分析では、島津製作所の IP 部門における生成 AI の具体的な活用状況は確認されていなかった⁶。しかし、サミットでの阿久津氏の発表は、この認識を完全に覆すものであった。

サミット参加者による事後レポートは、他では得られない決定的な情報をもたらした¹。阿久津氏の発表から明らかになった核心的な内容は以下の通りである。

1. 「最新の推論モデル」の活用：島津製作所は、広く利用可能な基本的な生成 AI ツールではなく、市場で最も先進的なモデルを活用している。これは、表面的な実験ではなく、最先端の能力を追求する本気の姿勢を示している。
2. IP 部門による独立した予算と契約：IP 部門がこれらの AI サービスを「独自に契約して使っている」という事実は、組織論的に極めて重要な意味を持つ。これは、全社的な IT 調達プロセスの遅いペースに縛られることなく、自部門の特定のニーズに最適なツールを迅速に選択・導入できる機敏性を持っていることを意味する。
3. AI 予算の圧倒的な消費者：最も衝撃的だったのは、IP 部門が「全社の生成 AI の使用予算の大半を知財部門が使ってしまった」という情報である。この一点だけで、IP 部門の位置づけが、単なる支援機能から、戦略的かつ高投資の優先事項へと変わる。

3.3. 比較ベンチマーク：トップグループの出現

サミット参加者のレポートは、知財領域における生成 AI の実用化において、島津製作所と京セラが日本の「トップグループ」を形成しており、その「進捗の先進性」が際立っていたと明確に指摘している¹。京セラもまた、安全なクローズド環境の整備やガイドライン策定に注力しつつ、特許ドラフト作成支援や先行技術調査などで生成 AI を積極的に活用している¹⁶。同社もまた、その広範な IP 戦略で知られている¹⁷。一方で、旭化成は尊敬されるパネリストではあるものの、島津製作所が明らかにしたような、予算を大胆に投下する自律的な戦略と比較すると、より慎重なアプローチを取っていると推察される。

会社名	主要人物	AI 戦略（公表/推察）	主要な啓示/裏付け
島津製作所	阿久津 好二 氏	積極的かつ自律的な導入。最先端モデルを活用し、直接的な戦略的優位性を追求。	「最新の推論モデルを使用」「IP 部門が独自に契約」「全社の AI 予算の大半を使用」 ¹
京セラ	竹口 幸宏 氏	先進的かつ構造的な導入。安全で統制されたフレームワーク内での効率化を重視。	島津製作所と共に「トップグループ」に位置する ¹ 。社内環境、ガイドライン、広範な IP 業務への適用に注力 ¹⁶ 。
旭化成	風間 進二 氏	計画的かつ統合的な導入。広範な研究開発プロセスの一環として、分析と効率化に焦点を当てていると推察。	パネル登壇は積極的な関与を示唆するが、予算や自律性に関する具体的な情報は島津製作所ほど顕著ではない。

この比較から、予算配分が戦略的意図を代弁するという事実が浮かび上がる。企業の予算は有限であり、戦略的優先順位に基づいて配分される。生成 AI のような新しい戦略的技術の予算が、ある部門に不釣り合いなほど大きく配分されるということは、経営陣がその部門を極めて重要な領域と見なしていることの証左である。島津製作所の IP 部門が生成 AI 予算の大半を消費したという事実は¹、単なる財務情報ではなく、その戦略的役割が格上げされたことを示す強力なシグナルである。これは、IP 部門がもはやコストセンターではなく、将来の成長と競争優位を牽引する、それ自体がハイテクな研究開発ユニットとして扱われていることを示唆している。

IV. マシンの内部：島津製作所の IP 業務への生成 AI マッピング

島津製作所が最先端の生成 AI を駆使しているという事実に基づき、その具体的な活用法を IP 業務のバリューチェーンに沿って分析する。

4.1. 時間から分へ：先行技術調査と FTO 分析の革命

従来の先行技術調査は、キーワードベースのアプローチに依存し、多大な時間と労力を要する作業であった。しかし、先進的な生成 AI モデルは、単なるキーワードではなく、発明の「意味」や「文脈」を理解するセマンティック検索を実行できる¹⁹。これにより、関連文献の特定がより速く、より包括的になる。さらに、大量のテキストを瞬時に分析・要約する能力は、レビュー時間を劇的に短縮する。

島津製作所が「最新の推論モデル」を使用していることを考慮すると¹、先行技術調査や FTO (Freedom-to-Operate) 分析の自動化と高度化にこれを活用している可能性は極めて高い。これは、同社が掲げる費用対効果の適正化とリスク最小化という戦略目標に完全に合致する³。ある専門家のレポートでは、これまで数時間を要した調査が最大 90% の時間短縮を実現する可能性がある³と推測されている³。

4.2. 創造と権利化の強化

高品質な特許明細書の作成は、高度に専門的なスキルを要する。また、特許庁からの拒絶理由通知への応答には、慎重な分析と論理的な主張が不可欠である。生成 AI は、これらのプロセスを以下のように支援する。

- **発明提案書の分析**：技術者から提出された発明提案書を要約し、構造化する。
- **明細書の初期ドラフト作成**：技術的な入力に基づき、定型的な部分や詳細な説明の初期ドラフトを生成する¹⁶。
- **請求項の生成**：代替的な請求項の文言や範囲を提案する。
- **拒絶理由通知の分析**：審査官の拒絶理由を分析し、反論や補正案の戦略を提案する。

島津製作所では、このようなドラフト作成の定型的な側面を自動化することで、阿久津氏自身のような弁理士資格を持つ専門家が¹⁴、発明の核心の定義、最も広く防御可能な請求項の作成、そして洗練された法的議論の構築といった、最も戦略的価値の高い業務に集中できる環境を整えている。これは、「強い権利」の獲得という目標を直接的に支援するものである¹¹。

4.3. IP ランドスケープの新境地

島津製作所は、公式ウェブサイトで、経営・事業戦略に知財情報を統合するために「IP ランドスケープにも取り組んでいます」と明言している¹¹。従来の IP ランドスケープは、多くの場合、静的でプロジェクトベースの分析であった。しかし、生成 AI はこれを動的で継続的なインテリジェンス・ストリームへと変革する。特許データと市場動向、科学論文、金融ニュースなどを統合し、リアルタイムの洞察を提供することが可能になる。

IP ランドスケープへの注力¹¹と先進的 AI の活用¹という 2 つの事実を組み合わせると、島津製作所がこの変革の最前線にいることが強く示唆される。彼らはおそらく、「当社の新しい質量分析計技術に隣接するホワイトスペースで、どの競合他社が特許を出願しているか、そして彼らの最近の製品発表に対する市場のセンチメントはどうか？」といった複雑な質問を、自然言語でデータに問いかけることが可能になっているだろう。これは、業界で議論されている先進的なユースケースと一致する³。

IP ワークフロー段階	主要タスク	生成 AI の能力	推定される効果/利点	裏付け
発明・戦略	発明提案書分析	要約、キーワード抽出、概念クラスタリング	評価の迅速化、主要な新規概念の特定	11
発明・戦略	IP ランドスケープ	特許/市場データのリアルタイム分析、トレンド特定、ホワイトスペース分析	データ駆動型の戦略的意思決定、早期の脅威検知	1
調査・分析	先行技術調査	セマンティック検索、文書要約、多言語横断分析	調査時間を 70-90% 削減、網羅性の向上	1
作成・出願	明細書作成	初期ドラフト、定型文、実施例の生成	作成時間の短縮、高価値な戦略的請求項への	16

			集中	
中間処理	拒絶理由応答	審査官の拒絶理由分析、反論・補正案のドラフト生成	迅速で一貫性のある応答、法的議論の質の向上	16
管理	ポートフォリオ分析	分類、価値評価モデリング、ライセンス対象の特定	ポートフォリオ管理の最適化、新たな収益機会の創出	11

V. 戦略的影響：競争優位性と組織的インパクト

5.1. 新たな競争指標：スピード、品質、戦略的機敏性

IP 分析とドラフト作成の時間を劇的に短縮することで、島津製作所は「アイデアから保護された製品まで」のライフサイクル全体を短縮できる。これにより、研究開発と市場投入において競合他社よりも迅速に行動することが可能となる。

また、人間の専門家を機械的な作業から解放し、戦略的な業務に集中させることで、より強力に防御可能な特許が生み出される。これは、より堅牢な IP ポートフォリオを構築し、競合他社に対する参入障壁を高める。このアプローチは、同社が目指す「知的財産網」の形成という目標を直接的に支援するものである¹¹。

さらに、生成 AI によって可能になるリアルタイムの IP ランドスケープは、市場の変化や競合の動きに迅速に対応して研究開発や事業戦略を転換することを可能にする。これは、従来の手法ではほぼ不可能だったレベルの機敏性である。

5.2. 自律性の力：組織と文化の変革

IP 部門に予算の自律性を与えるという決定¹は、企業からの信頼の力強い表明である。これは、オーナーシップ、説明責任、そして迅速な実験を奨励する文化を育む。このような環境は、最先端の分野で働きたいと考えるトップクラスの IP 人材にとって非常に魅力的である²⁴。

このモデルは、IP 部門を、受動的な法務機能ではなく、積極的でテクノロジー主導の先駆者として位置づける。この部門は、社内のパイロットプログラムとして機能し、その機敏な生成 AI 導入から得られた教訓が、より広範な全社展開のための情報として活用される可能性が高い。

この戦略を成功に導く上で、阿久津好二氏のようなリーダーの存在は不可欠である。開発から始まり、幅広い IP 領域での経験、IP ランドスケープやペーパーレス化といったイニシアチブを主導してきた経歴を持つリーダーシップが¹⁴、このような破壊的な戦略を提唱し、実行するためには必要不可欠であった。

5.3. リスクの航海：課題への先見的考察

島津製作所の先進的なアプローチは、同時に相応のリスクも伴う。

- **データセキュリティと機密性**：サードパーティの生成 AI モデルを API 経由で利用する場合でも、機密性の高い発明データを入力する必要がある。情報漏洩や、モデルが専有情報から学習してしまうリスクの管理は最重要課題である。京セラのような競合が「クローズドな環境」を重視しているのはこのためである¹⁶。島津製作所がこのリスクにどう対処しているかは、現時点では明らかになっていない重要な点である。
- **正確性と「ハルシネーション」**：生成 AI は、もっともらしいが誤った情報を生成することがある。精密な法律・技術文書である特許において、たった一つの「ハルシネーション（幻覚）」が請求項を無効にしたり、重大な法的脆弱性を生み出したりする可能性がある。弁理士のような専門家による厳格な人間による監督は、依然として交渉の余地のない必須事項である²²。
- **進化する法規制の状況**：AI が支援または生成した発明の法的地位は、世界的にまだ流動的である。日本の特許庁自身もこの問題を調査中であり、現時点では直ちに法改正の必要はないとしつつも、技術の動向を注視する必要があるとの結論を下し

ている²⁷。島津製作所はフロンティアで活動しており、法的な基盤が変動する可能性に直面している。

VI. 結論と戦略的提言

島津製作所の知的財産部門は、組織的な自律性と潤沢な予算を武器に、先進的な生成 AI の実践的活用におけるパイオニアとなる、見事かつ大胆な戦略を実行した。

「PatentSight+ Summit 2025」での発表は、彼らが日本国内だけでなく、おそらく世界規模でもリーダーであることを裏付けるものである。彼らは、IP 機能をスピード、品質、データ駆動型の洞察を通じて直接的に競争優位を生み出す戦略的資産へと見事に変革させた。

この成功の鍵は、(1) DX とイノベーションを支持する企業文化、(2) ビジネスケースを構築しビジョンを実行できる部門のリーダーシップ、(3) 断固として行動するための組織的権限と予算、そして(4) 利用可能な最高のツールを使用するという最先端技術へのコミットメントにある。

ステークホルダーへの提言：

- **競合他社（他の製造業・テクノロジー企業）へ：**ベンチマークは設定された。IP における生成 AI への「様子見」アプローチはもはや通用しない。自社の IP 部門の能力、予算、自律性を即座に評価する必要がある。IP 部門を先進技術の戦略的パイロットとして権限を与える島津製作所のモデルは、真剣に検討されるべきである。
- **IP/リーガルテックベンダーへ：**市場は二極化しつつある。島津製作所や京セラのような「先進的」顧客は、洗練され、強力で、カスタマイズ可能なソリューションを求めている。画一的な製品では不十分である。セキュリティ、正確性、そして複雑なワークフローとの統合に焦点を当てるべきである。
- **企業法務・IP 専門家へ：**役割は進化している。これらの AI ツールを使いこなす能力は、中核的なコンピテンシーになりつつある。価値提案は、定型業務の遂行（AI が自動化する）から、高レベルの戦略的思考、リスク管理、AI 生成物に対する品質管理へとシフトしている²⁰。キャリアの維持と発展のためには、積極的なスキルアップが不可欠である。

引用文献

1. LexisNexis PatentSight+ Summit 2025 - よろず知財戦略 ..., 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://yoroziipsc.com/blog/lexisnexis-patentsight-summit-2025>
2. 島津 統合報告書 2024, 6 月 22, 2025 にアクセス、 https://www.shimadzu.co.jp/sites/shimadzu.co.jp/files/ir/pdf/shimadzu_integrated_report_2024.pdf
3. 株式会社島津製作所の知的財産部門における生成 AI の活用に関する ..., 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://yoroziipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/2b8a6af9bb5798949372.pdf>
4. 中期経営計画 - 島津製作所, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.shimadzu.co.jp/ir/strategy/middleplan.html>
5. 2023 年度-2025 年度 中期経営計画 - 島津製作所, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.shimadzu.co.jp/sites/shimadzu.co.jp/files/ir/zt1g/b419i7v8637vxu8o.pdf>
6. 島津製作所の知的財産部門における生成 AI 活用の現状と今後の展望, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://yoroziipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/a5b82365f73fceb65a65.pdf>
7. 島津製作所、DX を加速する全社データ活用の推進に「Domo」を活用, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.domo.com/jp/news/press/shimadzu-dx-with-domo>
8. 島津製作所が DX 推進に向けて Domo を活用したデータ改革の全貌 - サードニュース, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://news.3rd-in.co.jp/article/6aca5fc2-8622-11ef-87d0-9ca3ba083d71>
9. 島津製作所、ドーモの「Domo」を活用 DX を加速し全社データ活用を推進 - SalesZine, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://saleszine.jp/news/detail/6448>
10. 生成 AI で社内資料検索、欲しい情報をすぐに入手できるシステム 島津製作所の事例から学ぶ, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/2504/22/news002.html>
11. 知的財産マネジメント - 島津製作所, 6 月 22, 2025 にアクセス、 https://www.shimadzu.co.jp/research_and_development/intellectual_property.html
12. 日本最大級の知財サミット LexisNexis PatentSight+ Summit 2025 5 月 28 日 (水) に開催, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000124984.html>
13. 2025 年知財サミット開催！競争優位を築く特許戦略を議論 - サードニュース, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://news.3rd-in.co.jp/article/4c455cba-18e3-11f0-b1cb-9ca3ba083d71>
14. LexisNexis PatentSight+ Summit 2025, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.lexisnexisip.jp/patentsight-summit/>
15. 島津製作所の知的財産部門における生成 AI の活用, 6 月 22, 2025 にアクセス、 <https://yoroziipsc.com/blog/ai2804577>
16. 京セラ株式会社の知的財産部門における生成 AI 活用の実態と今後の展望, 6 月 22, 2025 にアクセス、

- <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/5f251ebd2184273e92e9.pdf>
17. 知的財産 - 京セラ, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.kyocera.co.jp/intellectual-property/>
 18. 日経「知財経営ランキング」で 6 位の京セラ, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/blog/67694782>
 19. 先行技術調査のプロンプト (ChatGPTo3 で作成) - note, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://note.com/tsunobuchi/n/neb7bdac9bcdf>
 20. 【生成 AI 書いて出し】弁理士が AI に仕事を奪われる世界 - note, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://note.com/daisuke16/n/n8af40af124b5>
 21. 生成 AI を活用した特許取得術: 新しいアイデアの具現化とそのプロセス - note, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://note.com/aideashd/n/nde7ada4c8def>
 22. 弁理士業務への生成 AI の活用可能性と将来像 - AAMT/Japio 特許翻訳研究会, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://aamtjapio.com/kenkyu/files/symposium2024/oosawa.pdf>
 23. 生成 AI は特許実務をいかに変革するか | スタートアップのための六本木通り特許事務所, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://roppongidori.jp/updates/how-will-ai-revolutionize-patent-practice>
 24. R.K | 社員インタビュー | SHIMADZU×Diversity - 島津製作所, 6 月 22, 2025 にアクセス、
https://www.shimadzu.co.jp/diversity/interview/interview_12.html
 25. AI (人工知能) は弁理士の仕事を奪うか否か, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.soei.com/wp/wp-content/uploads/2023/07/AI%EF%BC%88-%E4%BA%BA%E5%B7%A5%E7%9F%A5%E8%83%BD%EF%BC%89%E3%81%AF%E5%BC%81%E7%90%86%E5%A3%AB%E3%81%AE%E4%BB%95%E4%BA%8B%E3%82%92%E5%A5%AA%E3%81%86%E3%81%8B%E5%90%A6%E3%81%8B.pdf>
 26. 弁理士業務 AI 利活用ガイドライン, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf>
 27. 「AI を利活用した創作の特許法上の保護の在り方に関する調査研究」の調査結果を公表します, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.meti.go.jp/press/2024/04/20240422002/20240422002.html>
 28. AI を利活用した創作の特許法上の保護の在り方に関する調査研究, 6 月 22, 2025 にアクセス、
https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/sesaku/ai/ai_protection_chousa.html
 29. 生成 AI 時代に求められる弁理士についての個人的考察, 6 月 22, 2025 にアクセス、
<https://hasegawa-ip.com/news/generative-ai-vs-attorney/>